



「カ」にさされやすいのは、どんな人なの

「カ」がさす人を見分けているのは

同じ場所にも、カにさされやすい人と、そうでない人とがいます。

「おいしい人」を、カがわかるという人もいますが、それはないようです。

カがさす人を見つける第一は水分です。お風呂上がりや運動のあとの、汗をかいて、水蒸気が、皮膚から出ているような人を、カはびん感に感じとります。

次に、口や皮膚から出る、二酸化炭素(炭酸ガス)や乳酸を、カは、遠くからでもびん感に感じとり、人に近づいて、人であることを体温を感じとって確かめ、さすのです。

「カ」にさされやすい人は

カは、汗をかいて、水蒸気が立ち上がっているはだや、口やはだから出る二酸化炭素・乳酸を、びん感に感じとり、人に近づいて、人の体温を感じとって確かめ、さします。

というわけで、汗かきの人や、体温の高い人はさされやすく、赤ちゃんも体温が高いため、よくさされるのです。(監修・保志 宏)

